レジ袋とプラ・ストロー削減

プラスチックものが建造物のあらゆるところに使われているが、建設現場にも梱包材や解体物などに多々見受けらる。

遅まきながらマイクロプラスチックが問題となってきた。

「環境中に存在する微小なプラスチック粒子であり、特に海洋環境において極めて大きな問題になっている。一部の海洋研究者は1mmよりも小さい顕微鏡サイズの全てのプラスチック粒子と定義しているが、現場での採取に一般に使用されるニューストンネットのメッシュサイズが333μm（0.333 mm）であることを認識していながら、5 mmよりも小さい粒子と定義している研究者もいる。」とウィキペディアに書かれている。

身の回りを見るとあらゆるところプラスチック製品が散乱しているが、現在の生活状況を見るとこれらのプラスチック製品を拒否することは至難のことです。しかし、これらの製品は、かつてあった道具の材質をプラスチックに替えることにより、耐久性、大量生産、ローコストそして使いやすいという生活感覚にマッチし普及してきた。

このプラスチック世界の中に埋もれた私たちの生活状況を替えることはできるのでしょうか。

このところ使い捨てプラスチック削減問題でプラスチックのストローを紙製品に変更しようという動きがある。運動のスタートとしてのPRとしてはいいが、なんか違和感がある。

先日の新聞に「使い捨てプラ日本規制遅れ」と出ていた。それによると「世界60ヶ国以上生産禁止や課金」に動いている。日本はスーパーが個別にレジ袋を有料化する例などがあるが、国として禁止や課金する規制はない。

国によるレジ袋規制の例としての国連環境計画がまとめた一覧表がでている。先進国7ヶ国G7でもプラスチックごみ削減の数値目標を盛り込んだ文書に日本と米国は署名せず、とのことだった。

▲ 駅のごみ箱からあふれるほど捨てられたプラスチックごみ。ほとんどがレジ袋や包装容器などの使い捨て製品だ＝2月、東京都内で

国によるレジ袋規制の例

ルワンダ	2008年、ポリエチレン製レジ袋の製造、輸入、使用などを禁止
モロッコ	16年、プラスチック製レジ袋の製造、輸入、販売などを禁止
中国	08年、薄い非分解性レジ袋の禁止、厚いものには課金
ブータン	09年、プラスチック製レジ袋を禁止
インド	16年、一部の非分解性レジ袋を禁止
チリ	17年、沿岸の102の自治体でレジ袋の販売禁止
コロンビア	17年、30㌢四方以下の使い捨てレジ袋を禁止、使い捨てレジ袋に課金
フランス	17年、レジ袋の原則的禁止
イタリア	11年、非分解性の使い捨てプラスチック製レジ袋の禁止
アイルランド、オランダ、ギリシャなど	プラスチック製レジ袋に課金
パプアニューギニア	16年、非分解性のレジ袋を禁止
パラオ	17年、レジ袋の輸入と配布を禁止

※UNEPによる

2018.6.30 東京新聞

米ハワイの海岸に打ち上げられたさまざまなプラスチックごみ＝米海洋大気局提供

2018.12.15 東京新聞